

京都女子大学

人文論叢

通巻50号記念

巻頭言	瓜生津隆真	1
	大國義一	3
論文		
ケルンの中世教会堂建築	愛宕出	5
——平信徒空間の視点から(3)		
D. H. ロレンスとエトルリア	河野哲二	29
——色彩的想像力をめぐって——		
シュレーゲルの言語有機体説	高橋達明	61
——マラルメの言語論についての覚書(Ⅲ)——		
アリストテレス『詩学』の余白に	竹中康雄	95
——『詩学』13章, 14章に寄せて——		
シュヤーマ本生説話の変容	橋本草子	109
——仏典を中心とする——		
L'Europe et ses langues	Cécile MOREL	131
T. イーグルトンのD. H. ロレンス解釈	吉村宏一	145
——『文学批評イデオとロジー』から『文学理論入門』へ——		
認識の真理性	三渡幸雄	1
——唯識哲学と批判哲学との対論(その四)——		
総目次 1号~49号		169

平成14年1月

論 文

総目次

総目次

第 1 号 (昭和33年 9 月 創刊)

佛 教 と 民 族	羽 溪 了 諦 (1)
日本人の生活文化と農耕	藤 田 義 憲 (24)
郭熙『林泉高致』と北宋繪畫	中 村 茂 夫 (35)
親鸞聖人の宗教批判	土 井 忠 雄 (75)
展 望	(88)

第 2 号 (昭和34年 1 月)

數 と 巫 と 龍	森 安 太 郎 (1)
自然主義の文學理論	中 村 茂 夫 (26)
——明治における近代的文學觀の形成(二)——	
語音象徴に関する場理論的展開	小 田 義 彦 (51)
カール・ベッカー「自然權哲學」(紹介)	禿 氏 好 文 (68)
佛陀, アジアの光 (英文)	スワミ ランガナタナンダ (103)

第 3 号 (昭和34年12月)

元 初 の 畫 論	中 村 茂 夫 (1)
——趙孟頫と李衍——	
俗信に対する法然上人の教誡	佐々木 徹 真 (25)
親鸞聖人消息の數通の年代について	宮 地 廓 慧 (43)
隱岐島に残存する舞と音楽	水 原 渭 江 (51)
ラッセル図表の変遷について	北 村 武 長 (71)
明治宗教史年表	佐々木 倫 生 (79)

第 4 号 (昭和35年11月)

嶽神考 (羊神考)	森 安太郎 (1)
北宋繪畫の傾向と當時の畫論	中 村 茂 夫 (27)
トーマスマンの作品に現われた「頽廢」について	酒 井 吏 (110)
隱岐島に残存する舞と音楽(Ⅱ)	水 原 渭 江 (133)
同和地区の部落民	藤 田 義 憲 (142)
集団問題解決の要因分析的研究	小 田 義 彦 (157)
新しい天文学の進展について	田 所 優 (167)
気温の垂直分布について	北 村 武 長 (206)

第 5 号 (昭和36年 6 月)

南宋繪畫の傾向	中 村 茂 夫 (1)
親鸞に於ける宗教的生の深化について	石 田 慶 和 (45)
ブリュンチエールの文学批評	杉 本 秀 太 郎 (65)
トーマス・マンにおける孤立感と連体感	酒 井 吏 (89)

第 6 号 (昭和37年 6 月)

六角夢想の年時	宮 地 廓 慧 (1)
サン・テクシュペリの「夜間飛行」	杉 本 秀 太 郎 (53)
顧愷之の画論	中 村 茂 夫 (67)
鳳 と 風	森 安太郎 (123)

第 7 号 (昭和37年11月)

舜の農神性	森 安太郎 (1)
宗炳と王微	中 村 茂 夫 (25)
——劉宋時代の画論——	
長歌續短歌	原 田 憲 雄 (66)
——李賀小記——	

人間学と存在の問題……………佐々木 倫 生 (94)
 真宗に於ける異義・異安心と異端の問題……………石 田 慶 和 (140)

第 8 号 (昭和38年 9 月)

金銅仙人辭漢歌……………原 田 憲 雄 (1)
 ——李賀小記——
 アランの詩論……………杉 本 秀 太 郎 (57)
 貞慶の教學と宿業思想……………明 石 光 麿 (78)
 現代に於ける宗教的要求の成立根據について……………石 田 慶 和 (95)
 氣候と氣質……………芝 燾 (1)
 ——矢田部—Guilford 性格検査と出生の時期——

第 9 号 (昭和39年 2 月)

蘇 禹 原 始……………森 安 太 郎 (1)
 齊梁時代の藝術思想……………中 村 茂 夫 (23)
 ——劉勰『文心雕龍』と謝赫『畫品』とをめぐって
 二十五三昧會の成立に關する諸問題……………堀 大 慈 (140)

第 10 号 (昭和39年11月)

利己化より共同化へ……………石 川 興 二 (1)
 河 伯 馮 夷……………森 安 太 郎 (14)
 良源と横川復興 (上) ……堀 大 慈 (24)
 ——とくに円仁門徒との関連をめぐって——
 現代学生の社会的態度について……………小 田 義 彦 (1)
 ——(1)親孝行に關する態度——

第 11 号 (昭和40年 3 月)

歴代名畫記論攷……………中 村 茂 夫 (1)
 現代における宗教的生の意義について……………石 田 慶 和 (67)

第 12 号 (昭和41年 2月)

- 良源と横川復興 (下)堀 大 慈 (1)
——比叡山中興と関連して——
- フランツ・カフカ試論.....酒 井 吏 (35)
- 論 評
- 新制大学の向上について.....石 川 興 二 (77)
- 新制大学に於ける第二外国語の在り方と其の教授法私見.....小 室 英 夫 (91)
- Hesse's "SIDDHARTHA" as a Buddhist Scripture.....Kakue Miyaji (1)

第 13 号 (昭和41年 4月)

- 常建詩集校注.....原 田 憲 雄 (1)
- イギリス基本法研究への序論.....禿 氏 好 文 (39)
——歴史的取扱に対する提言——
- 法華驗記成立攷.....明 石 光 麿 (59)
- 論 評
- 人文社会諸学の改善と西田哲学.....石 川 興 二 (81)

第 14 号 (昭和41年12月)

- 楞 伽.....原 田 憲 雄 (1)
——李賀小記——
- アテーナイ人と弁論術 (その1).....永 井 康 視 (38)
- カフカ昇天.....酒 井 吏 (61)
- 浄土教に於ける非神話化の問題.....石 田 慶 和 (88)
- 回心と人格的統合.....寺 川 幽 芳 (104)

第 15 号 (昭和42年12月)

- 馮 小 憐.....原 田 憲 雄 (1)
——李賀小記——
- Genos epideiktikon としてのエピタフィオス.....永 井 康 視 (37)

家と音楽	酒井 吏 (100)
カントにおける自由とその終始	芝 烝 (128)
——その生涯そのものから——	
Priest Ryūkan's Dialogue on the Life to Come	宮地 廓 慧 (1)

第 16 号 (昭和43年12月)

殷の湯王と夏の桀王	森 安太郎 (1)
負 薪	原 田 憲 雄 (19)
——李賀小記——	
浄土教に於ける非神話化の問題(二)	石 田 慶 和 (49)
古代仏教の一形態	高 谷 辰 生 (63)
——僧侶の山林修行の形成過程——	
『魔の山』の時間について	酒 井 吏 (110)
ロンギノス『崇高について』(上)	永 井 康 視 (138)
宗教的カウンセリングの諸問題	寺 川 幽 芳 (177)
「女性の教育」その理念の現実態	久 木 幸 男 (193)
——学生のかなやみの調査から——	芝 烝

第 17 号 (昭和44年11月)

現代に於ける宗教的経験の理解について	石 田 慶 和 (1)
神意と瞞着	酒 井 吏 (16)
——『ヨゼフとその兄弟たち』に関する一考察——	
ロンギノス『崇高について』(下)	永 井 康 視 (47)
杜 序	原 田 憲 雄 (113)
——李賀小記——	
William James の宗教観について(1)	寺 川 幽 芳 (127)

第 18 号 (昭和45年6月)

フロマンタン試論(1)	杉 本 秀太郎 (1)
——『ドミニック』の意味——	

悩 公	原 田 憲 雄 (33)
——李賀小記——	
William James の宗教観について(2)	寺 川 幽 芳 (89)
古代における日本人の思考(1)	芝 烝 (116)
——固有信仰の起源をめぐって——	
Justification through Faith in Luther and Shinran	宮 地 廓 慧 (1)

第 19 号 (昭和45年12月)

ローマ美術の様式構造(上)	中 村 茂 夫 (1)
『ファウスト博士』について	酒 井 吏 (77)
デーメートリオス『文体論』(上)	永 井 康 視 (104)
『教行信証』論考(一)	石 田 慶 和 (165)
——「権化」と「宿縁」——	
「法然上人御説法事」について	靈 山 勝 海 (184)
古代における日本人の思考(二)	芝 烝 (206)
——固有信仰の起源をめぐって——	

第 20 号 (昭和46年11月)

家庭的協力の法解釈と高度成長経済	禿 氏 好 文 (1)
穀霊(神農氏)	森 安 太 郎 (21)
現代の思想的状況と宗教	石 田 慶 和 (31)
「起信」の構造(1)	寺 川 幽 芳 (44)
デーメートリオス『文体論』(下)	永 井 康 視 (72)
『悪の花』小註	杉 本 秀 太 郎 (139)
ローマ美術の様式構造(承前)	中 村 茂 夫 (174)

第 21 号 (昭和47年11月)

戮 字 考	森 安 太 郎 (1)
月 支 頭	原 田 憲 雄 (9)
——王維札記——	

『悪の花』小註続第一……………	杉本秀太郎 (26)
スタンダードの文体について……………	東宏治 (50)
真俗二諦考……………	宮地廓慧 (60)
真俗二諦論の再検討……………	霊山勝海 (74)
——特に流出説を中心として——	
『教行信証』論考(二)……………	石田慶和 (91)
——「教巻」の根本問題——	
「起信」の構造(2)……………	寺川幽芳 (109)
日本の資本主義黎明期における企業家精神……………	大國義一 (138)

第 22 号 (昭和48年12月)

渴仰恋慕……………	原田憲雄 (1)
——法華経雑記——	
ドラヴィダ語と日本語(1)……………	芝 丞 (19)
——アルタイ系とオーストロアジア系との結合に関して——	
ヘーラクレイデース	
「ヘルラスにおける諸ポリスについて」……………	永井康視 (54)
ニーチェにおける科学と芸術の問題……………	岡本史郎 (95)
マラルメの「時の香のしみついた、いかなる絹が」について……………	高橋達明 (112)
現代における無神論の問題(1)……………	石田慶和 (145)
——ラスコーリニコフの絶望——	

第 23 号 (昭和49年12月)

歴史意識の構造……………	永井康視 (1)
——ギリシア的なものとヘブライ的キリスト教的なもの——	
『高翔』……………	大槻鉄男 (38)
——高翔の下降性について——	
マラルメの「YXのソネ」について……………	高橋達明 (55)
南泉斬猫……………	原田憲雄 (86)
人間学と存在の問題(二)……………	佐々木倫生 (101)

ドラヴィダ語と日本語 (二)……………芝	丞 (126)
——アルタイ系と南アジア系との結合に関して——	
ナーガールジュナ研究 (二)……………瓜生津	隆 真 (134)
現代における無神論の問題 (二)……………石 田	慶 和 (161)
——イワン・カラマーゾフの懷疑——	
真俗二諦論の再検討 (承前) ……………霊 山	勝 海 (179)
——流出説の再生——	

第 24 号 (昭和50年12月)

仏教における平等思想……………霊 山	勝 海 (1)
——仏陀におけるカーストの否定——	
宗 教 的 対 話……………寺 川	幽 芳 (18)
——その原理の可能性をめぐって——	
中 野 逍 遙……………原 田	憲 雄 (44)
スタンダールにおけるエゴチスム……………津 田	陽 (66)
『悪の花』《芸術詩篇》覚書……………大 槻	鉄 男 (92)
部落差別と憲法の人権保障……………禿 氏	好 文 (109)

第 25 号 (昭和51年12月)

カントにおける幸福の問題……………三 渡	幸 雄 (1)
重葦の異相と黄帝……………森	安 太 郎 (44)
魯迅「鑄劍」について……………細 谷	草 子 (61)
マラルメの「白鳥」のソネについて……………高 橋	達 明 (95)

第 26 号 (昭和52年12月)

『ヴェニスに死す』について……………酒 井	吏 (1)
——美の中の死——	
スタンダールの『アルマンズ』(Armance) についての一考察…………津 田	陽 (28)
マラルメの「勝ち誇って美しい自殺が逃れ」について……………高 橋	達 明 (58)

中国の飲酒儀礼管見……………	金田成雄 (78)
——特に巡酒と強酒とについて——	
真宗篤信者の社会的態度について……………	寺川幽芳 (95)
日本連邦制国家の構想……………	芝 烝 (120)
——国家における倫理性の基盤の回復——	
未開社会と、その家族……………	藤田義憲 (134)
——特に台湾辺境の原住民と、その家族——	

第 27 号 (昭和53年)

人文論叢創刊20年記念

巻 頭 言……………	中村茂夫
〔論文〕	
「徳の義務」の命法 (I)……………	三渡幸雄 (1)
——カント「徳論」の研究——	
若きゲーテにおける「自然」について……………	下村喜八 (26)
——シュトラースブルク時代のゲーテ (1) ——	
〔研究ノート〕	
マグナ・カルタ第39条の解釈をめぐる……………	禿氏好文 (58)
加速度原理の修正と景気循環……………	大國義一 (1)
家政学とは何か……………	芝 烝 (14)

第 28 号 (昭和55年2月)

〔論文〕	
時 の 輪……………	金田純一郎 (1)
——四方分叙をめぐる——	
「徳の義務」の命法 (II)……………	三渡幸雄 (38)
——カント「徳論」の研究——	
若きゲーテにおける「自然」について……………	下村喜八 (69)
——シュトラースブルク時代のゲーテ (2) ——	
日本をめぐるシャルルヴォワの幻影……………	塩川浩子 (93)
——『日本キリスト教盛衰史』について——	

現代における「宗教的配慮」について……………寺川幽芳(116)

第 29 号 (昭和56年 3 月)

[論文]

「徳の義務」の命法(Ⅲ)……………三渡幸雄(1)
——カント「徳論」の研究——

ナーガールジュナ研究(3)……………瓜生津隆真(34)

柳から椰子へ……………高橋達明(60)
——ペルナルダン・ド・サン=ピエール覚書——

[研究ノート]

漢武期の黄老派汲黯をめぐる……………田中麻紗巳(93)

第 30 号 (昭和57年 3 月)

[論文]

「徳の義務」の命法(Ⅳ)……………三渡幸雄(1)
——カント「徳論」の研究——

「今日のご機嫌ななめです…」……………塩川浩子(30)
——あるセヴィニエ夫人書簡の一解釈——

妙好人の回心経験をめぐって……………寺川幽芳(56)

[翻訳]

トーマス・マンの初期作品におけるヴァーグナー神話…… James Northcote-Bade (78)
訳岡本史郎

第 31 号 (昭和57年12月)

[論文]

カントにおける哲学の概念……………三渡幸雄(1)

帰郷……………酒井吏(37)
——市民と芸術家——

「当断不断, 反受其乱」について……………田中麻紗巳(62)
——前漢の使用例を中心に——

アダソンとルソー……………高橋達明(78)
〔翻訳〕
ニーチェとトーマス・マンにおける芸術と芸術家存在……………Peter Pütz
岡本史郎訳(110)

第 32 号 (昭和59年 3 月)

〔論文〕

カント哲学における「他人の存在」の問題 (I) ……三 渡 幸 雄 (1)
経験的統覚と超越論的統覚……………酒 井 潔 (27)
——ライプニッツからカントへ——
真宗篤信者の回心経験をめぐって……………寺 川 幽 芳 (57)
〔翻訳〕
トーマス・マンの初期作品におけるヴァーグナー神話(二)……………岡 本 史 郎 訳 (88)

第 33 号 (昭和60年 3 月)

〔論文〕

カント哲学における「他人の存在」の問題 (II) ……三 渡 幸 雄 (1)
「母以子貴」をめぐって……………田 中 麻 紗 巳 (43)
——両漢の用例と何休の解釈——
ストコヴォーイの『仏日語彙』……………高 橋 達 明 (69)

第 34 号 (昭和61年 3 月)

〔論文〕

和辻倫理学の国家観……………竹 内 亨 (1)
——近代日本における共同体論の事例研究として——
杜牧「歎花」詩考……………愛 甲 弘 志 (38)
〔資料〕
『西方指南抄』左訓集……………靈 山 勝 海 (1)

[論文]

- サルトルにおける蟹のイメージについて……………青 木 謙 三 (15)
——フロイトの理論から——

第 35 号 (昭和62年3月)

[論文]

- 賭 の 信……………後 藤 敏 雄 (1)
——パスカルと親鸞——
- ノルマンディ・ロマネスク建築の空間機能……………愛 宕 出 (20)
——内陣と身廊トリビューン——
- カント哲学における「他人の存在」の問題 (Ⅲ) ……三 渡 幸 雄 (49)
- レッシングと悲劇における「あやまち」 (*ἀμαρτία*) ……竹 中 康 雄 (86)
——「悲劇に関する往復書簡」に寄せて——

第 36 号 (昭和63年3月)

[論文]

- 日本におけるカント研究……………三 渡 幸 雄 (1)
——その研究の発展・考察の立場・哲学原理について——
- 何休『春秋公羊解詁』の「太平」について……………田 中 麻 紗 巳 (44)
- 親鸞における宗教意識の成熟と夢……………寺 川 幽 芳 (66)
- 「赤と黒」のジュリアンの首……………青 木 謙 三 (1)
——スタンダールのフェティシズム——

第 37 号 (平成元年3月)

[論文]

- ピカソと「芸術家とモデル」……………中 村 茂 夫 (1)
- カントにおける「良心」の問題……………三 渡 幸 雄 (51)
- 哲学の終末(←)……………竹 内 亨 (99)
——ハイデガーに於ける——
- カントの宇宙論的人間論の構想……………田 中 英 三 (120)
——人間の中間的位相について——

第 38 号 (平成 2 年 3 月)

〔論文〕

- ピカソ「芸術家とモデル」について (承 前) ……………中 村 茂 夫 (1)
 ——いわゆる「180点素描」を中心に——
- 不死なる魂への憧憬……………田 中 英 三 (71)
- 『白虎通』の「或曰」「一説」について……………田 中 麻紗巳 (96)
- 「赤と黒」のジュリアンの神……………青 木 謙 三 (1)
 ——スタンダールのナポレオン——

第 39 号 (平成 3 年 3 月)

〔論文〕

- カントの理論的・実践的経験と純粹統覚の問題……………三 渡 幸 雄 (1)
- 遺民黄宗羲の詩論について……………西 村 秀 人 (56)
- 物語の精神について……………酒 井 吏 (76)
- 土地問題についての一考察……………大 國 義 一 (1)

第 40 号 (平成 4 年 3 月)

〔巻頭言〕

- 追悼 中村茂夫先生……………酒 井 吏 (1)
- 中村茂夫先生を憶う……………芝 丞 (3)
- 学究, 中村茂夫先生を偲びながら……………禿 氏 好 文 (12)
- 中村茂夫先生略歴及び業績…………… (22)

〔論文〕

- カントの理論的・実践的経験と純粹統覚の問題(2)……………三 渡 幸 雄 (27)
- フランスにおける十一世紀前半の建築状況……………愛 宕 出 (68)
 ——施主と建築家——
- 土地基本法についての一考察……………大 國 義 一 (1)

第 41 号 (平成 5 年 1 月)

[論文]

- カントの理論的・実践的経験と純粹統覚の問題(3)……………三 渡 幸 雄 (1)
- 仏法僧鳥考……………高 橋 達 明 (32)
- ブラバントの「即位大典」(1356)……………川 口 博 (75)
- 試訳と注解——
- 『皮子文藪』所収「鹿門隱書」について……………愛 甲 弘 志 (106)
- 思想としての不完全性定理(1)……………竹 内 亨 (1)
- その論理的・哲学的試論——
- 論餘音聯縣詞……………王 若 江 (23)

第 42 号 (平成 6 年 2 月)

[論文]

- 島のありか……………高 橋 達 明 (1)
- Prose (pour des Esseintes)* 研究——
- Checklist-Aided Peer Correction in Teaching EFL Writing
……………FISHER, Marilyn (27)
- 『赤と黒』のジュリアンの父……………青 木 謙 三 (39)
- スタンダールのアンビヴァレンツ——
- アリストテレス『詩学』覚え書……………竹 中 康 雄 (1)
- カタルシス解釈をめぐって——

[紹介]

- 『マグナ・カルタ』……………中 川 淳 (78)
- イギリス封建制度の法と歴史——
- W・S・マッケクニ著, 禿氏好文訳

第 43 号 (平成 7 年 1 月)

[論文]

- ポ ー の 島……………高 橋 達 明 (1)
- Prose (pour des Esseintes)* 研究——

Conscience de la dimension géologique de l'être dans

- Vies minuscules* de Pierre MichonRAUX YAMASAKI, Annie (29)
- 汉语会話中的对答结构类型.....刘 虹 (57)
- 十一世紀ポワトゥーのモニュメンタル彫刻.....愛 宕 出 (69)
- 「全相二十四孝詩選」と郭居敬.....橋 本 草 子 (1)
- 二十四孝図研究ノート その一——
- 高啓における詩と隠逸.....西 村 秀 人 (35)

第 44 号 (平成8年1月)

[論文]

- ロレンスと表現主義.....河 野 哲 二 (1)
- 汉语会話中的对答结构类型.....刘 虹 (23)
- Schooling in '*Being Japanese*'BENNET David (33)
- 『孝行録』と『全相二十四孝詩選』所収説話の比較.....橋 本 草 子 (1)
- 二十四孝図研究ノート その二——

第 45 号 (平成9年1月)

[論文]

- 十一世紀ポワトゥー建築の空間演出.....愛 宕 出 (1)
- 《左传》の「非」、字用法的几个特点.....张 猛 (25)
- On the Meaning of the "True Disciple of the Buddha"野 村 伸 夫 (47)
- 『パルムの僧院』のファブリスの恋.....青 木 謙 三 (57)
- エディプスとしてのトリアード——
- 仏法僧鳥考 (承前)高 橋 達 明 (1)

第 46 号 (平成10年1月)

[論文]

- 『パルムの僧院』のファブリスの愛.....青 木 謙 三 (1)
- トリアードとしてのエディプス——
- Information Technology, Sport and English Word-formation

.....	DAVID Bennet (29)
A Consideration of Dictation as a Teaching Tool.....	MARILYM C. Fisher (39)
沈黙する純粹について.....	竹内 亨 (59)
——ウィトゲンシュタイン論考 試論(一)——	
「日記故事」の版本について.....	橋本草子 (33)
——二十四孝図研究ノート その三——	
パラスの『ロシア南部紀行』.....	高橋達明 (1)
——風景論の視座から——	

第 47 号 (平成11年1月)

[論文]

オルペウス, ミュートスの誕生.....	高橋達明 (1)
——『農耕歌』第4巻453-527行——	
『赤と黒』と『ドン・キホーテ』.....	青木謙三 (39)
牧神パンの笑い.....	河野哲二 (69)
——ロレンスの裸体画『半獣神とニンフ』(1928)について——	
任侠的李白.....	张 英 (97)
Student Peer Group Collaboration in Dictation as Evidence of Individual's Process of Language Analysis and Interlanguage Proficiency	FISHER, Marilyn C. (107)
Towards ELT Curriculum Development In Japanese Universities: Some Organisational Considerations	BENNET, David (135)
認識の真理性.....	三渡幸雄 (1)
——唯識哲学と批判哲学との対論(その一)——	

第 48 号 (平成12年1月)

[論文]

言語の科学.....	高橋達明 (1)
——マラルメの言語論についての覚書——	
ロレンスの「裸体画」にみる風刺的攻撃性.....	河野哲二 (25)

ケルンの中世教会堂建築……………愛 岩 出 (45)	
——平信徒空間の視点から (1)	
真宗文化論の試み……………和 田 俊 昭 (67)	
语义, 语用与文化……………张 英 (93)	
——兼析日本汉语教材——	
English-medium Instruction in Schools in the Himalayan Kingdom of Bhutan: Tradition and Modernity……………Louisa DORJI (117)	
Le théâtre, une réflexion sur la grammaire comportementale. ……………Cécile MOREL (139)	
認識の真理性……………三 渡 幸 雄 (1)	
——唯識哲学と批判哲学との対論 (その二) ——	

第 49 号 (平成13年 1 月)

〔論文〕

『ダーウィン理論と言語の科学』……………高 橋 達 明 (1)	
——マラルメの言語論についての覚書 (Ⅱ) ——	
ドストイェフスキーの『罪と罰』……………青 木 謙 三 (23)	
——父との同一化の視点——	
ケルンの中世教会堂建築……………愛 岩 出 (47)	
——平信徒空間の視点から (2)	
Speaking Japanese in Class: A Survey of L1 Usage by Foreign English Language Teachers Japanese Universities ……………David SHIMIZU (69)	
English Pronunciation and Japanese Speakers: Improving Intelligibility……………Louisa DORJI (79)	
Quel avenir pour l'Organisation de la Francophonie?……………Cécile MOREL (95)	
Im Innern ist ein Universum auch……………Monika WERNITZ-SUGIMOTO (111)	
—— <i>Die Welt der Sprache in Kurahashi Yumikos Erzählung Amanon-koku ôkanki</i> ——	
認識の真理性……………三 渡 幸 雄 (1)	
——唯識哲学と批判哲学との対論 (その三) ——	

京都女子大学人文学会会則

第1条 (名称) 本会は京都女子大学人文学会と称する。

第2条 (目的) 本会は会員の人文関係諸学の研究の促進と会員相互の親睦とをはかることを目的とする。

第3条 (事業) 本会は前条の目的を達するため下記の事業を行う。

1. 研究発表会, 公開講演会の開催
2. 機関誌の発行およびその他の出版物の刊行
3. その他必要と認められる事業

第4条 (会員) 本会は正会員と賛助会員とによって構成される。必要に応じて名誉会員を置くことができる。

正会員……本学の外国語準学科および人文科学関係科目に属する教授・助教授・専任講師および助手, 又はこれに準ずる教職員

賛助会員…本会の趣旨に賛同して入会を希望する本学関係の職員並びに学生又は元会員で会員資格の継続を希望するもの

名誉会員…本学会の元会員であって総会で承認を受けた教職員

第5条 (入会) 新たに入会しようとする者は正会員による総会の承認を必要とする。

第6条 (役員) 本会に下記の役員を置く。

会長 1名

幹事 3名

役員は正会員の教授・助教授および専任講師の中から選ぶ。

第7条 (運営) 会長は本会を代表し, 本会の運営にあたる。幹事は会長を補佐し, 本会運営の実務を担当する。事務局は会長の所属する共同研究室に置くことを原則とする。

第8条 (役員を選出) 役員を選出は正会員の互選によるものとする。

第9条 (任期) 前項の役員の任期は2年とする。但し, 再任のときは1年とし, 再々任は認めない。

第10条 (編集委員会) 機関誌およびその他の出版物の刊行のための一切の事務を行うため, 編集委員会を組織する。

編集委員会は, 幹事および必要に応じて会長が委嘱する編集委員をもって構成する。

編集の方針に関しては編集委員会に一任する。但し, 必要に応じて編集委員会は編集に関して特別委員会を設置することができる。

第11条 (会員の権利義務) 正会員および賛助会員は所定の会費を納めなければならない。

会員は機関誌の無償配布を受け, 機関誌および研究会において研究成果を発表することができる。

第12条 (会費) 前条の会費は第3条に定める事業および総会、役員会などの開催に要する経費にあてる。

第13条 (会計年度) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第14条 本会会則の改正・変更に関しては、正会員をもって構成する総会の決議によるものとする。

付 則

昭和42年11月1日施行

昭和49年5月1日改正

昭和54年2月23日改正

昭和54年11月17日改正

昭和60年2月15日改正

昭和61年5月14日改正

昭和62年2月13日改正

平成7年5月11日改正

平成10年5月15日改正

平成11年7月7日改正

人文学会慶弔規定

第1条 人文学会会員の慶弔・傷病等の場合はこの規定により慶弔金、見舞金等を贈る。

第2条 この規定に適用される場合は次の各号とする。

- (1) 会員の結婚のとき
- (2) 会員の退職のとき
- (3) 会員の1カ月以上の病気のとき
- (4) 会員の死去のとき
- (5) 会員の父母、配偶者の死去のとき

尚、会員に贈られる金額については、内規による。

第3条 第2条の各号以外の特別な場合は、これに準じて考慮し、必要に応じて総会の承認を得なければならない。また、これらの慶弔、見舞金などに対する返礼は一切辞退するものとする。

第4条 上の規定の変更は総会の承認を必要とする。

付 則

昭和42年12月10日施行

昭和54年1月10日改正

昭和60年2月15日改正

平成7年6月7日改正

平成11年7月7日改正

『人文論叢』発行細則

1. 編集委員会は年度当初において発行計画を発表し、遅くとも原稿締切の1カ月前に会員にその旨通知し、寄稿者は遅くとも締切の15日以前に原稿枚数を編集委員会に通告するものとする。
1. 執筆原稿は400字詰用紙50枚以内を原則とする。
1. 冒頭に400語以内の欧文の要旨をつけることができる。
1. 使用の文字は原則として当用漢字とし、新仮名遣いを用いるものとする。
1. 初校、再校は執筆者の校閲を経ることとし、三校は編集委員会において校正するものとする。
1. 執筆者には抜刷30部を贈呈し、それ以上の抜刷が必要な場合は、実費を執筆者が負担するものとする。

付 則

昭和42年11月1日施行

昭和54年2月23日改正

平成7年5月11日改正

人文学会会員（50音順）

〔名誉会員〕

石田 慶和	今津 晃	小熊 勢記	金田 成雄	芝 丞
酒井 吏	杉本秀太郎	瀧野徳三郎	津田 陽	寺川 幽芳
禿氏 好文	中川 淳	長安 章俊	宮地 廓慧	三渡 幸雄
霊山 勝海				

〔会員〕

愛甲 弘志	○青木 謙三	瓜生津隆真	●大國 義一	岡本 史郎
愛宕 出	郭 振華	河野 哲二	佐々木恵精	D. Shimizu
M. 杉本	高橋 達明	竹内 亨	竹中 康雄	徳永 道雄
L. Dorji	西村 秀人	野村 伸夫	○橋本 草子	福永 俊哉
C. Morel	吉村 宏一	○和田 俊昭		

〔賛助会員〕

舟橋 和夫

編 集 後 記

- 『人文論叢』50号（発刊50回記念号）をおとどけします。
春まで学長をつとめられ、かつて本学会会長をされた瓜生津隆真氏、本学会の歴史にくわしい現会長大國義一氏の御二方から記念号への巻頭言を頂戴しました。また1号から49号までの総目録を収め、表紙なども記念号らしい体裁にするべく配慮しました。
- 本年度の行事はつぎのごとくです。
1. 6月27日、本年度の総会が開かれ、前年度の会計報告がなされた。
 2. 10月17日（3時～5時）、本年度の公開講座が開かれ、本学教授佐々木恵精氏に「海外の仏教事情—特にヨーロッパの念仏者たち—」の題目で講演していただきました。
- 本学会会員の瓜生津隆真氏（仏教学）、郭振華氏（中国語）、David SHIMIZU 氏（英語）が本学を去られることになりました。お三人の今後のさらなる御活躍をお祈り申し上げます。（青木謙三）

平成14年1月20日 印刷
平成14年1月28日 発行

（非売）

「人文論叢」第50号（記念号）

京都市東山区今熊野北日吉町35

編 集 京 都 女 子 大 学 人 文 学 会

代 表 者 大 國 義 一

京都市下京区中堂寺鍵田町2

印刷所 株式会社 図書同朋舎

Kyōto Women's University

Journal of Humanities

No. 50

Jubilee Number

Contents

Prefaces.....	URYUZU, Ryushin	1
	OHKUNI, Giichi	3
Articles		
Mediaeval Architecture in Cologne. From the Viewpoint of Lay Space (3)	OTAGI, Izuru	5
D.H. Lawrence and Etruria: His Coloristic Imagination	KOHNO, Tetsuji	29
Note sur la pensée linguistique de S. Mallarmé (III)	TAKAHASHI, Michiaki	61
Bemerkungen zur <i>Poetik</i> von Aristoteles —zu den Kapiteln 13 und 14.....	TAKENAKA, Yasuo	95
The Change of Śyāma Jātaka	HASHIMOTO, Soko	109
L'Europe et ses langues	Cécile MOREL	131
Terry Eagleton's Interpretation of D.H. Lawrence: from <i>Criticism and Ideology to Literary Theory</i>	YOSHIMURA, Hirokazu	145
Verity in Cognition	MIWATARI, Yukio	1
—The comparative study between Vijñaptimātratā philosophy and Critical philosophy (4)—		
Back Number's List of Articles: from 1 to 49		169

Edited by

Association of Humanities

2002